



## 平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成28年1月15日

上場会社名 SDエンターテイメント株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4650 URL http://www.sugai-dinos.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河野 正  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 吉住 実 TEL 011-241-3951  
 四半期報告書提出予定日 平成28年1月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績（平成27年4月1日～平成27年12月31日）

（1）連結経営成績（累計） （％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
28年3月期第3四半期	6,017	—	68	—	△54	—	△85	—
27年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 28年3月期第3四半期 △90百万円（－％） 27年3月期第3四半期 一百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△9.90	—
27年3月期第3四半期	—	—

（注）平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期第3四半期の数値および対前年同四半期増減率は記載しておりません。

### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
28年3月期第3四半期	10,111	2,144	21.2	245.94
27年3月期	—	—	—	—

（参考）自己資本 28年3月期第3四半期 2,139百万円 27年3月期 一百万円

（注）平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成27年3月期の数値は記載しておりません。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	13.40	13.40
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期（予想）	—	—	—	8.86	8.86

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。平成27年3月期については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。

3. 27年3月期 期末配当金の内訳 普通配当6円70銭 記念配当6円70銭

### 3. 平成28年3月期の連結業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	8,800	—	460	—	320	—	280	—	31.22

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 平成28年3月期第1四半期連結会計期間より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）エムシーツー株式会社、除外 1社（社名）  
（注）詳細は、添付資料P. 4「2サマリー情報（注記事項）に関する事項」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期3Q	8,757,000株	27年3月期	8,607,000株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	58,588株	27年3月期	64,788株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期3Q	8,669,212株	27年3月期3Q	8,514,612株

（注）当社は、平成27年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「発行済株式数（普通株式）」を算定しております。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続きを実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

当社は、以下のとおりアナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布した資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定であります。

平成28年1月28日（木）・・・証券アナリスト向け決算説明会

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書 .....	7
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書 .....	8
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済状況は、消費税増税の影響から個人消費が伸び悩み、設備投資も先行指標にぜい弱さがみられる一方、円安・原油安を背景に企業業績の改善が進み、まだら模様ながら緩やかな回復基調で推移しました。

このような環境の下、「健康グループ」の経営理念であり、当社の経営の基本方針である「皆様の『けんこう (KENKOU)』をつくり、『えがお (EGA O)』と『かがやき (KAGAYAKI)』と『ありがとう (ARIGATOU)』を創造し続け、世界中に広めます。」の経営理念のもと、経営の効率化を図り、一層の収益力の強化に取り組んでまいりました。

前期はコスト削減・体質改善を中心とする「フェーズ1」を推し進め成果を上げほぼ終了し、今期は売上拡大・成長を主眼とする施策を推進する「フェーズ2」へと移行、セグメント横断的な施策として、再来場促進を狙いとしたスマホ用「ディノスアプリ」を最大限に活用するなど、顧客基盤強化施策を実施したほか、ポイントカード会員システムを一新し、従来できていなかったCRM (Customer Relationship Management) の強化推進を進めるべく準備に入っております。

また、電力料金値上げによる負担増を抑えるための施策として、従来より北海道内の自社ビルである大型複合アミューズメント施設を中心に、インバーター制御盤の交換や電球のLED化を進めてまいりましたが、今期も引き続き、一部店舗に省エネのための設備投資を順次実施しており、コスト削減に努めております。

平成27年5月12日に開示したとおり、エムシーツー株式会社の発行済全株式を健康コーポレーションから譲受けしたことに伴い、健康コーポレーション以外からのコールセンター事業などの通信事業、事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、ソフトウェア販売事業及び介護事業を営むエムシーツー株式会社及びその子会社3社を譲り受けしたこと、加えて平成27年7月1日より介護事業と通信事業を営む株式会社フォーユー及びその子会社を連結子会社にしたことで、業容の拡大、ならびに既存事業との連携及び効率化を図りたいと計画しております。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は60億17百万円、営業利益は68百万円、経常損失は54百万円となりました。ゲーム店舗1店舗閉店により、第2四半期連結会計期間において、固定資産除却損等の特別損失を39百万円計上し、親会社株主に帰属する四半期純損失は85百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における売上高をセグメント別に示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)	前年同四半期比 (%)
GAME事業部 (千円)	1,675,347	—
フィットネス事業部 (千円)	1,660,507	—
ボウリング事業部 (千円)	863,400	—
施設管理事業部 (千円)	882,079	—
(シネマ) (千円)	(668,279)	(—)
(その他) (千円)	(213,800)	(—)
その他 (千円)	935,712	—
合計 (千円)	6,017,047	—

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 施設管理事業部の(その他)は、土地・建物の賃貸収入等の売上であります。

3. 施設管理事業部のセグメント内訳は、内部管理上採用している区分によっております。

4. 当第3四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前年同四半期との比較は行っておりません。

(GAME事業部)

GAME事業部につきましては、平成27年5月に新規店舗として「ディノスパーク南福島店」及び平成27年12月に「ディノスパーク上磯店」を出店しました。また、名古屋市内のゲーム店1店舗の閉鎖や一部改装のための休業による減収がございましたが、ビデオゲームの「鉄拳7」、「Wonderland Wars」などのヒット作に恵まれたほか、閑散期にクーポンを配布して再来場を促したことなどにより、売上高は16億75百万円となりました。

(フィットネス事業部)

フィットネス事業部につきましては、10月より店名変更一周年の入会キャンペーンを実施したことに加え、3ヶ月以内の入会者に無料のサポートシステムを強化することで、入会者の初期定着率の向上を図りました。ホットヨガのハーティノルベサ店閉店(加圧スタジオBLOOMS業態転換)などによる減収がありましたが、オリジナル物販商品のラインナップを拡大したこと、見学者の入会率アップや退会率の引き下げなどのKPIの改善策の実施などにより、売上高は16億60百万円となりました。

(ボウリング事業部)

ボウリング事業部につきましては、前期から推進しているLTB(ボウリング教室)を強化し、トーナメント、リーグへ繋げ顧客の拡大を図ったことや渉外活動の強化により、予約団体が好調に推移しました。また、前期好評を得たDJで場内を盛り上げ、アルコール販売強化を目的としたイベントガール投入を継続し、「パーティ・ボウリング」を推進したことや新しいメニューの追加、シャンパン等高額商品の販売も試みました。さらには、マスクング広告の売り込みによる付帯収入増もあり、売上高は8億63百万円となりました。

(施設管理事業部)

施設管理事業部につきましては、「シネマ」部門において、今夏に上映した「ジュラシック・ワールド」や年末から上映している「スターウォーズ/フォースの覚醒」及び「妖怪ウォッチ エンマ大王と5つの物語だニャン!」等ヒット作を例年よりも多く上映できました。特に札幌地区については、コンサートライブ上映などのODS(非映画デジタルコンテンツ)も好調であり、一部地域では競合店の撤退によるプラス影響等もあり、売上高は6億68百万円となりました。「その他」に分類している賃貸施設管理部門においては、新たに室蘭の店舗の遊休スペースを他社のカラオケ店に賃貸し(平成27年5月)、売上高は2億13百万円となりました。

(その他)

その他のカフェ事業等につきましては、利用料金の改定、新しい飲食メニューの導入、スキャナー導入などのビジネス機能の強化や各種企画開催等の施策を実施しました。また、オンラインゲームの新タイトル導入によるコンテンツの強化、それに合わせたゲームパック料金サービスを開始しました。

また、グループ会社による事務用品等の販売を行う「カウネット」事業、通信事業、訪問介護事業、介護事業及び通信テレマーケティング事業の運営により、売上高は9億35百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は101億11百万円、負債は79億66百万円、純資産は21億44百万円となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間は、連結初年度にあたるため、前期末との比較分析は行っていません。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成27年10月22日付「業績予想の修正及び特別損失計上に関するお知らせ」にて発表したとおり、以下の理由により、個別・連結とも前回発表した業績予想に変更はありません。

第4四半期においては、第3四半期にあった改装休業や閉店に伴うマイナス要因が見当たらず、雪国北海道を中心地盤とする当社においては、アウトドアレジャーが限定される第4四半期がインドアレジャーの一番の繁忙期であること、一定水準の売上を超えると高率の利益を計上できる特色のあるボウリング事業が引き続き好調を継続していること、フィットネス事業においては、入会キャンペーンの増収効果が1月から出てくることなど収益に与える大きなプラス要因が見込めます。その他、逆風下にあったGAME事業においても、インターネットとリアル融合「ネットキャッチャー」などの事業を1月下旬に開始すること、連結子会社のエムシーツー株式会社等の利益貢献が見込めることなどがあげられます。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結累計期間において、新たに取得したエムシーツー株式会社を連結の範囲に含めております。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、エムシーツー株式会社の取得により同社の子会社である3社（ITグループ株式会社、ITネクスト株式会社及びIT Telemarketing株式会社）についても連結の範囲に含めております。また、同じく特定子会社の異動には該当していませんが、株式会社フォーユー及び同社の子会社である株式会社フィリアを連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

（企業結合に関する会計基準の適用）

第1四半期連結会計期間より「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号 平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号 平成25年9月13日）を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成27年12月31日)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,119,880
売掛金	307,643
商品及び製品	50,395
原材料及び貯蔵品	105,936
その他	243,528
貸倒引当金	△2,204
流動資産合計	1,825,180
固定資産	
有形固定資産	
建物及び構築物(純額)	3,023,983
土地	2,670,817
その他(純額)	896,443
有形固定資産合計	6,591,244
無形固定資産	
のれん	170,523
その他	48,040
無形固定資産合計	218,564
投資その他の資産	
差入保証金	1,153,586
その他	252,055
投資その他の資産合計	1,405,641
固定資産合計	8,215,450
繰延資産	70,419
資産合計	10,111,050
負債の部	
流動負債	
買掛金	289,970
短期借入金	20,270
1年内償還予定の社債	862,800
1年内返済予定の長期借入金	717,964
未払法人税等	24,306
ポイント引当金	8,850
その他	1,158,699
流動負債合計	3,082,860
固定負債	
社債	2,239,200
長期借入金	1,933,319
資産除去債務	149,149
その他	561,972
固定負債合計	4,883,640
負債合計	7,966,500

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成27年12月31日)

純資産の部	
株主資本	
資本金	148,885
資本剰余金	1,855,876
利益剰余金	142,361
自己株式	△13,198
株主資本合計	2,133,924
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	5,374
その他の包括利益累計額合計	5,374
新株予約権	5,250
純資産合計	2,144,549
負債純資産合計	10,111,050

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	6,017,047
売上原価	1,332,424
売上総利益	4,684,622
販売費及び一般管理費	
給料	1,236,878
退職給付費用	15,549
地代家賃	871,607
その他	2,492,043
販売費及び一般管理費合計	4,616,078
営業利益	68,544
営業外収益	
受取利息	1,808
受取配当金	625
受取保険金	6,040
その他	3,679
営業外収益合計	12,153
営業外費用	
支払利息	58,902
その他	76,686
営業外費用合計	135,589
経常損失(△)	△54,891
特別利益	
投資有価証券売却益	2,672
受取和解金	4,000
補助金収入	11,380
新株予約権戻入益	244
違約金収入	5,472
保険解約返戻金	19,213
事業譲渡益	1,868
特別利益合計	44,851
特別損失	
固定資産除却損	39,470
減損損失	11,851
店舗閉鎖損失	655
特別損失合計	51,978
税金等調整前四半期純損失(△)	△62,018
法人税、住民税及び事業税	26,863
法人税等調整額	△3,055
法人税等合計	23,808
四半期純損失(△)	△85,826
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△85,826

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純損失(△)	△85,826
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	△4,780
その他の包括利益合計	△4,780
四半期包括利益	△90,607
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	△90,607
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。